

# 野外風化耐久性試験

供試体にTOT霧吹き処理と含浸処理を施し、野外に放置して風雨や直射日光にさらした。試験は梅雨時期の1997年7月1日に開始した。現在3ヶ月以上が経過し、その間日照りや豪雨そして台風なども襲来したが、TOT含浸処理を行った供試体は、未だに完全な形状を保っている。なお、TOT処理によって変色や照りは全く生じなかった。

供試土：瓦材用の砂質粘土 供試体：直径5cm / 高さ10cm / 3層突き固め  
：無処理（左下）      ：TOT霧吹き処理（左上）      ：TOT含浸（右下）



写真1 野外放置後9日目（7月9日）  
：風雨によって流出し始める      ：亀裂入る      ：変化なし



写真2 野外放置後42日目（8月11日）  
：完全に流失      ：破損し外側は残存したがTOTの浸透しない内部は一部流失した      ：変化なし

TOT霧吹き処理（ ）及び、含浸処理を行った供試体（ ）共に、12月2日現在も「写真2（42日目）」の状態を保っている。